日工組通信

第29回

日工組はこのほど、パチンコ依存問題に対応すべく、勉強会を開催した。講師として招いたのは脳科学界の第一人者、諏訪東京理科大学教授の篠原菊紀氏。調査を行い、データを分析・蓄積した上で対策を取ることの重要性を語った。また、日工組理事長の金沢全求氏は依存問題を踏まえた機械作りを目指すことを表明した。

これまでにも「リカバリーサポート・ネットワーク」や「パチンコ・パチスロ産業21世紀会」がガイドラインや運用マニュアルを作成

パチンコ依存問題（のめり込み）その強化策

脳科学界の第一人者 諏訪東京理科大学教授の篠原菊紀氏を招いて勉強会を開催

現在、日本でギャンブル依存症の疑いがある人は推計536万人（2014年、厚生労働省の研究班が公表）。

昨年12月にこの数字が注目されたのは、「特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律案」、いわゆる「IR推進法」の国会審議の最中に、ギャンブルへの依存症に関する議論が起きたからだ。法案成立後には、ギャンブル全般の依存症対策を検討する関係閣僚会議が発足されたほか、厚生労働省に依存症対策推進本部を設置するなど、政府は対策に乗り出している。

パチンコ業界には2006年に発足した「リカバリーサポート・ネットワーク」（RSN）というパチンコ依存問題の解決に向けて支援を行う相談機関があり、発足から11年で対応した相談件数は約2万件におよぶ。また、2015年には日工組を含む業界14団体による「パチンコ・パチスロ産業21世紀会」が、「パチンコ店における依存（のめり込み）問題対応ガイドライン」および「同運用マニュアル」を策定し、現在も取り組みが進められている。

しかし、金沢全求日工組理事長は現状からさらに改善すべきだと考えている。「依存症対策には国も力を入れているし、世間からも我々が業界としてどのようにケアをしていくか、問いを受けている。我々は勉強し、対応していく」という考えのもと、3月には勉強会が開催された。

日工組理事長 金沢全求氏

講師の篠原菊紀諏訪東京理科大学教授は、ギャンブル依存、あるいはギャンブル依存症ではなく、「遊技障害」という言葉を使う。その理由はいくつかある。アメリカ精神医学会の「精神疾患の診断・統計マニュアル第5版」では「ギャンブル依存」ではなく「ギャンブル障害」という言葉を用いていること。パチンコ・パチスロはレイズアップ（金額を上げること）ができない、遊技時間が規制されている、射幸性が規制され台の撤去も行われている等、カジノとは異なる遊技性や規制があることから、「ギャンブル障害」ではなく「パチンコ・パチスロ障害」が適切と思われること。パチンコ・パチスロは法的には遊技であるため、「遊技障害」と言えること。

過度の射幸性を抑えた、新たな遊技機の導入も

過去の研究から、遊技障害には要因別にいくつかのタイプが存在することがわかっているため、篠原教授は「依存症」とひとくくりにすることには異を唱えている。

「病気だからパチンコをやめさせるしかない、病院に入れるしかない、そう言うのは簡単な話です。しかし、実際に対処してみると、定義に当てはまらない人が山のようにいる。発達の問題を抱えていたり、環境の要因だったりとさまざまな問題がある。ですから、それぞれのケースに応じて対応をしないと意味がありません」

障害対策（予防や治療）はすべての人に対して一律ではなく、個々人の素因等に応じた個別的なものにならざるを得ない、と予測する。

その対策のために、篠原教授は私案として「遊技障害尺度」の使用を提案する。きちんとした尺度をもとに、ホールで実際に調査をし、データを蓄積することにより、初めて有効な対策を考えられるからだ。また、機械作りにおいてもその尺度を利用できるのでは、と考えている。

「遊技障害尺度」をもとに調査し、データの蓄積を

諏訪東京理科大学教授の篠原菊紀氏

金沢理事長は「遊技障害、依存症の人数はどれぐらいなのか。どういう人が、どのようにしてのめり込むのか。パチンコやパチスロが面白いからそうなったのか、それともまた別の理由があるのか。篠原教授のお話を参考にして、今後はホール団体の方とも話し合いながら、依存症を減らすため、ならないための対策を取っていきます」と話した。

また、機械的な内容にも言及。「今はセブン機が主流ですが、今後は玉の動きで一喜一憂できるタイプの機械、多種多様なゲーム性、遊びやすいスペックの機械もたくさん作っていかなければと考えています」

過度な射幸性を抑える方法として、機種ごとの獲得可能出玉を表示することや、一元化された各台の情報を確認できるシステム（管理遊技機）の導入も検討されている。

パチンコは大きな転換点を迎えることになるのかもしれない。

次回は4月28日掲載

過去の掲載はこちらで読めます　http://www.nikkoso.jp